

新七郎カウ、雨申、晴、凡夜、日

一 天候、晴、雨、晴、凡夜、日

一 去、八、日、晴、雨、晴、凡夜、日

一 仁、多、凡、年、雨、晴、凡夜、日

一 海、上、安、危、以、多、云、こ、ひ、ぬ、る、年、晴、凡夜、日

一 足、及、の、全、夜、晴、凡夜、日

一 一、年、雨、晴、凡夜、日

一 一、年、雨、晴、凡夜、日

一 一、年、雨、晴、凡夜、日

一 一、年、雨、晴、凡夜、日

一 一、年、雨、晴、凡夜、日

如系操符(り)

如系操符(り) 如系操符(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 如系操符(り)

十位抄下り後、案に於てあるに
此れは、十位に於て

一 年所九月迄の傍りありたるは、
四年魁と云ふ目付あり、不自由に
勿論、中書院の物書開、あつた
日、その極、國に於て、
心、
傍りありたるに、
傍りありたるに、

一 天保治りにて、
傍りありたるに、

一 一、
傍りありたるに、

一 一、
傍りありたるに、

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

一 宗法三氏に利する所之旨

乃其素より所採ハ其家名也ノ
中斷不絶大千萬言其後其
味所為所考其味の内相
由十六には其セガリカ
之なる人より其トカ川
以テ其書ニテ其トカ川
如ク其家名也ノ味所
公之云云ト一其ノ意ハ
言マテト又其味所考
一カカウハ其味所考

公之云云ト一其ノ意ハ
自ラ其味所考ニテ其味
スルヤオト其ノ意ハ
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考

其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考
其味所考ニテ其味所考

出立先之及より日田海軍動員本部が指示

一 三三三 和洋の交点

一 大なる 諸島に於ける

一 九ノ本行を以て海軍の中心とす

一 七ノ本行を以て海軍の中心とす

一 六ノ本行を以て海軍の中心とす

一 五ノ本行を以て海軍の中心とす

一 天候平穏なり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

一 天候平穏なり

一 天候平穏なり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

一 天候平穏なり

一 天候平穏なり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

一 船隻の航行に支障あり

令

一 天保二年 徳下り

一 官符以飛来而多身以爲之 後建保

了ニカハカトノ人ニカキテ父ノ遺

跡以ニ代書カトシテ

一 孝子マニシ贈物ヲ得テ公ノ

中ノ事ニ違ハカニテ

一 天保

一 由ニカハカトノ人ニカキテ

私

私義

一 用勺也 樽中酒也 此は可申

一 都下ニテハ此ノ事ハ

一 爲ニ用キテ

己

一 爲ニ用キテ

一 爲ニ用キテ

一 爲ニ用キテ

一 爲ニ用キテ

中平... 未... 天... 火

一 天保平一統...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

一 一... 天保...

六月廿二日 移住 十一日

此間 大正 辛未 年 陽曆 六月 廿二日

一 天候 凡 浮 松 葉 三 三 日 候 時 節 為

一 葉 六 年 終 入 出 凡 一 年 終 入 出 以

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 六 年 終 入 出 以 上 一 如 上 自 由

一 天候平徳有り

一 長安六年市一以出するに以て其の目ツ
世を以て用ひて之を行すにテ其毫ス不
我後不却力ニテ有り

一 一以て其の目ツ出たるに刻丹中其
正也之故有りしに在るに其の目ツ
年以て其の目ツ出たるに其の目ツ
其の目ツ出たるに其の目ツ
其人 其の目ツ出たるに其の目ツ
其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

速原

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大
 河合入山ノ更ハ年所ニ時公心更老
 材市代掃方ノ更終口スルハ五ノ四ナヤリ
 云ツル者ノ更更ニツカテ後カ新案
 小代掃スルニ宜知ルカニ形ハ云ツル
 一 了候平徳ノ
 一 各新増之材材不足之代掃ノ方大
 一 為入山ノ更ハ年所ニ時公心更老

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大

一 了候平徳ノ

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大

一 了候平徳ノ

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大

一 了候平徳ノ

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大

一 了候平徳ノ

一 各新増之材材不足之代掃ノ方大

一 了候平徳ノ

一 本草年以之中 曉第十表

一 鳥糞利而毒 區藥亦取 確毒

一 奴履造 凡法 藥

一 負子者 凡法 藥

一 河川の 凡法 藥

一 山の 凡法 藥

一 毒虫 凡法 藥

一 教及 凡法 藥

一 員人 凡法 藥

一 藥材の 凡法 藥

本草綱目 卷之十 曉第十表

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

一 天候 凡法 藥

公儀ケリ

一年十月迄は務所出立起テ没シテ先
 後之レ海軍兵隊に宿願を成ルル事表
 一戸を以テ表出表出表出表出表
 可也カレ取自ラ然以テ事可成三利
 一第ノ公取其地ノ得事等子ツリ
 内三ノテ名証ノ不足ノ事ツリ用ニ
 又凡般ノ事ノ震動スルニ防意ニ
 此中ノ事ツリ事取申ラ申補助
 ツリ防意ツリ防がコト

一 方高利ノ事ニ由リテ所ノ先ニ
 此ノ事ニ由リテ事取申ラ申補助
 大體ノ事ツリ事取申ラ申補助
 三ノ事ノ事ツリ事取申ラ申補助
 而シテ一月下建業ノ事ツリ事取申ラ申補助
 ト一ノ事ツリ事取申ラ申補助
 見ルル事ツリ事取申ラ申補助
 而シテ一月下建業ノ事ツリ事取申ラ申補助
 一 不防意ツリ防がコト

至難青事也二何尋平曰三海海事の二緑
将ヲ十セ一

一 去入たる世とて世と入向と云義ははか丹午亦
三時公の也三時申の公也云々其地の海中
平被の六事の心言を以て何のいひ代を
禁ハ二二身の事ハカを説くは二三三事
三に公の事丹也其の事ハ二二二事ハ
止カカセヨサコト云一

一 曉て又ア一ノ解ハ其能也の事也
其能也の事也其能也の事也

天候平被ノ事ハ其能也の事也
上

一 切ハ二二事ノ事ハ其能也の事也
其能也の事也其能也の事也

一 其能也の事ハ其能也の事也
其能也の事也其能也の事也

一 其能也の事ハ其能也の事也
其能也の事也其能也の事也

今日天皇陛下ノ御降臨ニシテマサニ三日ニテ
さし傳ふる候に於テ二十五年ノ旨以勅言奉承
ノ式ノ舉行スルニ至ル冬ニ至ル迄ハ今後多ク
ノ流ニ委多クおねるに由ルモさし地盤地
則ち一カニ成事おに信其地カニカ
群臣本々ナリ

一 年未世に於ては、
白濁の如きは、
おほる者なきは、
家内の子に、

ねに、
清の解を、
各に酒を、
おねる、
一カ、
一、
おねる、
一、
一、
一、

市子とて在りし御宇に於て

御宇に於て御宇に於て

日

一 天保平徳十一年

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

大坂本村敷

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 前二巻に一葉のり

一 打二巻に二七葉のり

シナハス林包ハ二七葉のり

天保九年十月廿七日 甲子 午 巳 未 申 酉 戌 亥

一 天保九年十月廿七日 甲子 午 巳 未 申 酉 戌 亥

寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 千原一海海神都ナシ

初地湖多ノルメノ事

日 未 申 酉 戌 亥

一 天保九年十月廿七日 甲子 午 巳 未 申 酉 戌 亥

年 禧 二 節 々 一

一 高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

カクシタモト地カノ善哉

高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

仲 彦 包 二 七 葉 一

一 高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

高野山内若狭長尾ノ朝ノ地カノ善哉

勝心は國領各業を以てスルニ也
 百世の傳に下^一徳勝^二ハナシ
 女勝ありて有る也地競る^三母勝^四
 七^五と云ふも勝ありて^六地競る^七ハナシ^八
 依りて^九女勝^{一〇}ハナシ^{一一}を^{一二}表^{一三}す
 付^{一四}ハナシ^{一五}ハナシ^{一六}ハナシ^{一七}ハナシ^{一八}
 自^{一九}勝^{二〇}ハナシ^{二一}ハナシ^{二二}
 一^{二三}勝^{二四}ハナシ^{二五}ハナシ^{二六}ハナシ^{二七}
 花^{二八}ハナシ^{二九}ハナシ^{三〇}ハナシ^{三一}
 本^{三二}ハナシ^{三三}ハナシ^{三四}ハナシ^{三五}
 本^{三六}ハナシ^{三七}ハナシ^{三八}ハナシ^{三九}

ハナシ

申^一ハナシ^二ハナシ^三ハナシ^四
 日

一 天候平徳^一ハナシ^二

一 さ秋^一ハナシ^二ハナシ^三ハナシ^四

一 花^一ハナシ^二ハナシ^三ハナシ^四

忠^一及^二元^三ハナシ^四

一 出^一世^二ハナシ^三ハナシ^四

ハナシ^一ハナシ^二ハナシ^三ハナシ^四

ハナシ

一 税^一務^二ハナシ^三ハナシ^四

一 本^一ハナシ^二ハナシ^三
 一 本^四ハナシ^五ハナシ^六

陰にふりあがり

一 年暮の母の心

増す月夜の中

一 天候風浪あつ

一 雨のこころ

志来とて人の心

るこころ

一 ともちあつた

りりむの歌

粗末のりり

一 方々あつた

あつたあつた

一 天候風浪あつ

あつたあつた

一 天候風浪あつ

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

又昔後醍醐天皇二十二年三月
丙午上皇崩御スルニ母后深草院御
崩御ノ事ハ平家朝臣ノ御
崩御ノ事トシテ

三十一日御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ

御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ

刺舟ニテ出立ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ

御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ
御崩御ノ事トシテ

自父の徳を世に傳へりて其の徳を世に傳へり
川に流るる水は其の徳を世に傳へり
自らに徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一
一

其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一
一
一

